TSUDA TODAY

No.130

津田塾大学

March 2024

2023年度 卒業式式辞

学長　髙橋 裕子

ご卒業おめでとうございます。新しい世界に羽ばたかれるみなさんに心からの祝福を申し上げます。みなさんの大学生活は、新型コロナウイルスによるパンデミック、ウクライナやガザでの戦争、トルコ・シリア、そして能登半島での地震など、歴史に刻まれる悲劇が多い４年間でした。とりわけ入学と同時にコロナ禍に直面したみなさんは、想像もしていなかったような困難を経験されたことでしょう。そうした中でもみなさんは新しい学び方や活動の仕方などを工夫し続けながら大学生活を全うしました。そのことをうれしく、誇りに思います。

今年は津田梅子生誕 160 周年に当たります。そして７月には津田梅子の肖像が印刷された新５千円券が発行されます。

財務省のウェブサイトによれば、選定の理由として、「1871 年、岩倉使節団に随行した最初の女子留学生の一人。1900 年に女子英学塾（現 津田塾大学）を創立するなど、近代的な女子高等教育に尽力」と説明されています。しかし、女子英学塾を創設しても、1929 年の津田梅子の逝去とともに学校が閉校になっていたら、今回の銀行券の話はなかったのではないでしょうか。

実は、女子英学塾を創る前に、津田梅子は自身の後継者となる女性リーダーの育成に着手していたのです。２度目の留学でブリンマー大学に在籍中（1889 - 1892）、アメリカ女性の支援を得て、「日本女性米国奨学金」と呼ばれた奨学金制度を創設していました。当時、8000 ドルを集めれば、その利子で４年に一人、同胞の女性をブリンマー大学に派遣できると構想したのです。２年間の留学期間を１年間延長してファンドレイジングを展開し、目標額に到達させました。本奨学金制度で 1976 年までに、後進の女性たち 25 名に留学への道を切り拓いたことになります。自身の後継者となった星野あいや藤田たきも、奨学生でした。

こうして学校が続き、本学が輩出する多才な卒業生たちの、多様な分野での活躍があったからこそ、津田梅子が「近代的な女子高等教育に尽力」したことが広く社会に認められたのでしょう。津田梅子は、19 世紀末から人、モノ、カネ、情報を動かすグローバルなネットワークを紡ぎ出し、自身一回きりの経験で終わらせることなく、自分に続く女性の＜長い列＞を連ねていくことに全身全霊を捧げた、勇気ある人だったのです。津田塾で学ぶ人たちはそのような「津田スピリット」に感化され、卒業生は決してあきらめることなく、力を尽くす人と評価されています。

そのお一人が今年２月６日に亡くなった赤松良子さんです。赤松さんは本学の各賞授賞式の冠となっている方々の中で唯一ご存命の方でしたが、今年の３月は受賞者と一緒にランチをすることが叶わなくなりました。

赤松さんも津田梅子と同様に、生涯をかけてジェンダー平等の実現に力を尽くされました。みなさんに影響を与えたであろうご貢献は、1985 年の男女雇用機会均等法の成立です。職業を持って、自立して生きる女性たちの力になりたいと全身全霊で本法案の成立に取り組まれました。赤松さんの伝記『志は高く』には「楽しいことが好き、みんなと集まって、美味しいものを食べたり、音楽を聞いたり」「できるかぎりその機会は逃さない」とあります。しかし、こう続きます。「けれど、私は、自分の人生はそれだけでは嫌だと思っている。なすべきことをすること、どんなに困難でも、自分の仕事をやりとげるのでなかったら、人生は空しいと思う」（59 頁）

津田塾大学のモットーは「変革を担う、女性であること」です。日本女性の社会参画は未だに、ジェンダー・ギャップ指数 146 か国中125 位と、きわめて厳しい状況にあります。とりわけ政治や経済、そして高等教育の分野で女性の参画に著しい格差があります。そのような状況だからこそ、人生 100 年時代を生きるみなさんにはこれから大学院に進んだり、留学をしたりする機会も掴んでいただきたい。そして、新５千円券に描かれる津田梅子の肖像が、本学を卒業するみなさんに、そして次世代の女性たちに、勇気と励ましを与える歴史的人物として、変革を担うインスピレーションになることを切に願っています。

みなさんが、パイオニアとして道を切り開いた津田梅子や赤松良子さんのように、変革を担う女性の＜長い列＞に続き、後進のために さらに道幅を広くするような社会貢献をされることを祈念して、はなむけの言葉といたします。

2023年度 卒業・修了（終了）者数

2024年3月12日時点

＜学部＞

学芸学部	9月30日付	3月15日付	3月31日付	合計
英語英文学科	2	206	1	209
国際関係学科	2	180	0	182
多文化・国際協力学科	0	61	1	62
数学科	0	38	0	38
情報科学科	1	44	0	45
計	5	529	2	536
総合政策学部	9月30日付	3月15日付	3月31日付	合計
総合政策学科	1	90	2	93
計	1	90	2	93
学部合計	6	619	4	629

＜大学院＞

修士課程	3月15日付	合計	備考
文学研究科	13	13	うち英語教育研究コース８人
国際関係学研究科	6	6	
理学研究科	10	10	数学専攻５人、情報科学専攻５人
計	29	29	
後期博士課程	3月15日付	合計	備考
文学研究科	1	1	終了１人
国際関係学研究科	1	1	修了１人
理学研究科	0	0	
計	2	2	

※大学院は９月30日付・３月31日付修了なし

2023年度 各賞受賞者

◎ De Ford（ド・フォード）賞

フルブライト客員教授として本学で教鞭をとった Sara de Ford（サラ・ド・フォード）先生の寄付を基金として制定され、優秀な卒業論文を書いた英語英文学科の学生に授与。

英語英文学科：岡崎 朝雪

◎星野あい賞

第２代学長・星野あい先生の寄付を基金として制定された賞。成績優秀な数学科の学生に授与。

数学科：近成 秋穂　濵口 由貴　村上 絢香

◎藤田たき賞

第４代学長・藤田たき先生の寄付を基金として制定された賞。優秀な論文（英文）を書いた国際関係学科の学生に授与。

国際関係学科：浅見 英理

◎石坂泰三賞

元本学理事長・石坂泰三氏の寄付を基金として制定された賞。

英語英文学科：大学院に進学し、かつ成績優秀な学生に授与。

齊藤 日南子　金山 智華　七条 乙衣

情報科学科：成績優秀な学生に授与。

小島 美緒

国際関係学科：優秀な卒業論文を書いた学生に授与。

吉澤 優

◎赤松良子賞

本学卒業生で、労働省初代婦人局長として男女雇用均等法の制定に尽力された赤松良子氏のご功績をたたえ、優秀な卒業研究プロジェクトを完成させた総合政策学科の学生に授与。

総合政策学科：江連 千佳　西野 麗華

◎中根千枝賞

本学卒業生で、女性フィールドワーカーのパイオニアであった中根千枝氏の功績をたたえ、特に優秀なフィールドワーク報告卒業論文を作成した多文化・国際協力学科の学生に授与。

多文化・国際協力学科：鷲田 舞綺　齊藤 明香里　五十嵐 穂乃花

〈 学科主催の論文賞 〉

情報科学科

◎卒業論文最優秀賞

「ソリストの要望を反映した自動伴奏システム」
小島 みなみ　小島 美緒

◎卒業論文優秀賞

「課題分析図を用いたつまずき把握支援システムの開発ー中学数学を事例としてー」
関口 綾乃

「離散ソボレフ不等式と筋交いの強度に関する考察」
受賞者１名

「メシゴトマスター：食事と食事以外の行為の円滑な共存を可能にするシステムの提案」
有吉 由真　小林 かさね

「QR ゲストナビ：住人にとって快適な来客対応を実現する仕組みの提案」
蛯名 美月　福冨 梨紗　三ツ木 想

「機械学習によるキャラ弁作りサポート手法の提案」
田島 未悠

「RGB-NIR カメラを用いた 照度に依存しない非接触 SpO２推定」
細田 彩花

「旅先での行先迷子を解消するトラベルサポートシステム：ほっとリップ」
飯田 桃果　松田 瑞希　松岡 ゆき乃　乙部 真帆　冨田 楽夏

総合政策学科

◎卒業研究プロジェクト奨励賞

鄭 多賢　河井 奈南　前田 早陽子　宮崎 葵

市河三喜賞の授与

市河三喜賞は、日本の英語学界の草分け的存在で、本学の理事・評議員として在任された市河三喜氏の寄付を基金として制定されました。英語で書かれた論文、創作、翻訳、エッセイ等を学部、学科、大学院を問わず募集し、優秀な作品に対し授与されます。

2023 年度は５年ぶりに受賞者が選出され、2023 年 12 月 13 日（水）のクリスマス礼拝終了後に、津田梅子記念交流館岡島記念チャペルにて授与式が執り行われました。受賞者には学長から、賞状と副賞の図書カードが贈呈されました。

● 2023 年度受賞者

三席　英語英文学科４年　稲葉 沙也香
（翻訳作品 “Run Melos” による受賞）

第７回 津田ヶ谷祭開催報告

第７回津田ヶ谷祭実行委員会

第７回津田ヶ谷祭を盛会のうちに、無事終了することができました。

今年度は新型コロナウイルス感染症が５類に移行し、さまざまな制限も緩和されたことから、入場制限なし、事前予約不要の対面開催で実施しました。「百花のサキガケ」というテーマのもと、一人ひとりが自分らしく楽しめる津田ヶ谷祭を目指して、委員一丸となり準備を進めました。当初は、どのくらいの人に来場していただけるかわからず、不安な面もありましたが、両日合わせて 1400 人を超える方にご来場いただくことができました。昨年は電子配布だったパンフレットを、今年は見やすい紙パンフレットとし、梅公園では縁日、またステージ企画としてダンスサークル等によるパフォーマンスが行われ、大盛況となりました。数ある企画の中で、来場してくださった方に特に人気だったのは構内全てを使った謎解き企画です。「誰でも気軽に参加することができて楽しかった！」というお声をたくさんいただくことができました。大きな怪我や事故もなく二日間を無事に終えることができて、本当によかったです。

縁日の様子

外門と執行部メンバー

さまざまな新しい企画や、取り組みを行った中で、困難や失敗もありましたが、それら全ての経験を今後の学生生活や、社会での活動に活かしていきたいと思います。

津田ヶ谷祭はまだまだ歴史の浅い学園祭ではありますが、津田塾大学総合政策学部をより多くの方に知っていただけるよう、また、地域に根付いた大学として躍進していけるよう、今後とも邁進していきたいと思います。

津田ヶ谷祭にご尽力いただいた方々に、感謝申し上げます。今後とも津田ヶ谷祭をよろしくお願いいたします。

2023 年度第１・２ターム　授業に関するアンケート実施結果

2023 年度第１・２タームの授業に関するアンケートを６・７月に実施しました。延べ 20,226 人の履修者数に対して回答者数は 8,442 人、回答率は 41.7% でした。設問 1〜12、18〜25 は、授業が適切に実施されていたかの評価となっており、ほとんどの設問において４点以上と高評価を得る結果となりました。設問 13〜15、17 は、学生が自分自身の受講姿勢を振り返る設問です。昨年度同時期から特に改善した項目は、1 シラバスは有用だったか、4 到達目標の達成度、14 授業への取り組み、23 質問の機会・回答（いずれも 0.02 ポイント上昇）の４つです。

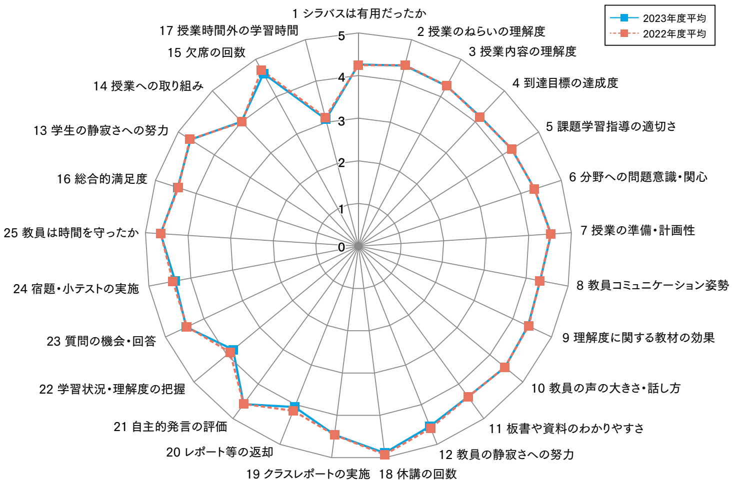
これら結果については各学科・関連委員会等で確認し、問題点の共有・検証・改善を行っており、その取り組み状況を全学教務委員会において確認しています。今後もアンケートを実施し、活用していきます。

授業に関する設問

1　この授業を受講する際に、シラバスは有用でしたか。
2　各回の授業のねらいは明確に理解できましたか。
3　各回の授業の内容は理解できましたか。
4　授業で到達目標としている内容が身についたと思いますか。
5　課外学修の指導（参考文献の提示、文献の調べ方など）は適切でしたか。
6　この授業を受講して、テーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。
7　この授業はよく準備・計画されていたと思いますか。
8　教員は受講者とコミュニケーションをとる努力をしていましたか。
9　教科書・授業レジュメプリントや参考文献は、講義内容の理解に効果的でしたか。
10　教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。
11　板書やパワーポイント等の資料はわかりやすかったですか。
12　教員は静かな環境で受講できるよう努力していましたか。
16　総合的に判断してあなたはこの授業に満足しましたか。
18　教員は何回ぐらい休講（補講のないもの）をしましたか。
19　教員はクラスレポート（口頭発表）を課し、論評していますか。
20　教員はレポート等の返却（またはその告知）をしていますか。
21　教員は自主的発言を重んじ、評価していますか。
22　教員は学生一人一人の学修状況、理解の程度を把握していますか。
23　教員は質問の機会を与え、適切に答えていますか。
24　教員は宿題や小テストを課しましたか。
25　教員は授業の時間を守っていましたか。

受講姿勢に対する自己評価

13　授業を静かな環境で受講できるよう努力しましたか。
14　この授業に積極的に参加し、意見や質問を述べるよう努力しましたか。
15　この授業の今までの欠席回数は何回ですか。
17　この授業に関して、授業時間外で学修に当てた時間は毎週どれくらいでしたか。
※ 文献調査・資料収集を行った時間も含む



※ 設問別　回答内容
問 1〜14、19〜25　[5]：大いにそう思う　[4]：そう思う　[3]：どちらともいえない　[2]：あまりそう思わない　[1]：そう思わない
問 15（欠席回数）　[5]：0 回　[4]：1 回　[3]：2 回　[2]：3 回　[1]：4 回以上
問 16（総合満足度）　[5]：満足　[4]：やや満足　[3]：ふつう　[2]：やや不満　[1]：不満
問 17（授業外学修時間（週））
[5]：3 時間以上　[4]：1-3 時間　[3]：30 分 -1 時間　[2]：30 分未満　[1]：ほとんど行わなかった
問 18（休講回数）
[5]：0 回　[4]：1 回　[3]：2 回　[2]：3 回　[1]：4 回以上

高大連携協定の締結について

本学は、2023 年 11 月 17 日に三輪田学園中学校・高等学校（東京都千代田区）、12 月 4 日に遺愛女子中学校・高等学校（北海道函館市）、12 月 11 日に捜真女学校中学部・高等学部（神奈川県横浜市）、12 月 20 日に白梅学園高等学校（清修中高一貫部を含む）（東京都小平市）、2024 年 2 月 22 日にカリタス女子中学高等学校（神奈川県川崎市）、光塩女子学院中等科・高等科（東京都杉並区）と高大連携協定を締結しました。

協定では、相互の信頼関係に基づいた双方の教育及び研究機能についての交流・連携として、例えば、協定校の生徒が科目履修生として本学の対象の講義を受講できる仕組みを導入する他、高等学校において 2022 年度から導入された新学習指導要領における探究活動への支援の提供などの活動を行う予定です。新学習指導要領では、プログラミング教育を含んだ「情報 I」が必修化されるなど、高校での学習内容が大きく改革されています。今後は、協定校との多面的で活発な交流を通して、双方の教育全体の活性化を行い、協定校と本学の間での教育内容の接続の実現を図ってまいります。

ロンドン大学 SOAS（the School of Oriental and African Studies）との学生交流協定が締結されました

英国ロンドン大学 SOAS（School of Oriental and African Studies, アジア・アフリカ研究学院）は、アジア、アフリカ、中東を主な研究対象とする英国名門大学で、複数のカレッジを持つロンドン大学に属しています。2023 年の分野別 QS World Ranking では、開発学で世界 2 位、人類学世界 12 位（英国内 5 位）、政治学は世界 17 位（英国 5 位）、メディア＆コミュニケーション分野では英国内 16 位など、英国のみならず世界で高い評価を受けているリサーチ大学です。

135 以上の国から留学生を受け入れており、学生数の約半数は留学生です。日本研究も盛んで、日本の多くの大学と協定を結んでいますが、この度本学とも学生交流協定を締結し、世界トップレベルの大学で学べる機会が広がりました。

大英博物館のすぐ近くという立地で、学生はロンドンの中心地で生活をすることになります。本学の英国協定校の中では唯一の交換留学協定校で、授業料が相互免除となります。

大学 Web サイト：https://www.soas.ac.uk/

トランスジェンダー学生受け入れに関しての取り組み

大学では今後のトランスジェンダー学生受け入れを踏まえ、以下の取り組みを行っています。

- ジェンダー、セクシュアリティ相談室の設置

  4 月から専門家による相談室を開設し、在学生、教職員がジェンダーやセクシュアリティ全般に関して相談できる仕組みを作りました。対面のみならず、匿名、ビデオオフでのオンライン、複数名での相談にも対応しています。
- 職員研修の実施

  夏期休暇期間において、職員研修を実施しました。専任職員、嘱託職員合わせて 93 名が参加し、LGBTQ（性的マイノリティ）、SOGIE（性的指向・性自認・性表現）について専門家による基本的な説明を聞き、異なる立場でロールプレイングを行うなど、学びを深めました。

2023 年度クリスマス礼拝　要約「これより大きな愛はない」

ピリピ人への手紙　2 章 6 節～11 節（新改訳聖書 2017）

▶奨励と演奏：キャサリン・ポーター氏（WEC 国際宣教団　音楽宣教師）

英国人の私がハープを習い始めたのは 8 歳です。やがて、音楽や勉強の成功で人に愛されたいという生き方の限界にぶつかり、うつになりました。そして真の救いを求め、私の罪のために死んで復活されたイエス様の愛を知りました。教会からの帰途、何か月か振りに食事の味がしたのが、うつ病からの快復でした。

それから将来のために祈り、音楽宣教師として日本への派遣が決まりました。2011 年 3 月、震災直後の混乱の中、神様だけに頼り献金も満たされ、日本の地を踏めたのです。あれから 12 年。イエス様に喜んでついて来ました。

キリストが無力な赤ちゃんとして来られたのが、クリスマスの奇跡です。最後には、犯罪人同様十字架につけられました。この不思議な生き方にこそ、他にはない大きな神の愛があります。

最初のクリスマス、ベツレヘムの馬小屋の飼い葉桶に、羊飼いたちは嬰児を探し当て、礼拝します。博士たちも来て、贈り物を捧げます。マリヤは胸に抱く自分の小さな男の子が完全な天の小羊、偉大な神だということを知っていたのでしょうか。

ぜひ今年のクリスマス、一歩前進し、正直に愛の神様に近づきましょう。

※演奏曲目「私を贖う方は生きておられる」「あなたに」「まぶねの中に」「さやかに星はきらめき」「MARY, DID YOU KNOW?」「急ぎ来たれ 主にある民」

創立120周年記念事業

■新札発行記念シンポジウムを開催

2023年12月3日（日）に新札の肖像となる渋沢栄一、北里柴三郎、津田梅子にゆかりの深い方々にご参集いただき、それぞれの人物が時代のなかで果たした役割についてお話いただくシンポジウムを小平キャンパス特別教室にて開催しました。

東京商工会議所名誉会頭三村明夫氏による基調講演では、冒頭に「新札の顔となる３人にはひとつの共通点がある。実業界、教育界、医学界と立場は異なっているが、いずれも民間人であり、明治という激動の時代においてそれぞれの立場で日本の発展に大きな役割を果たした」「日本は非西洋圏のなかで唯一植民地化もされず、文化とアイデンティティを損なうことなく、近代国家への発展を遂げた世界の中で唯一の国であり、何が日本をこのような例外的な国家にしたのかを探ることは多くの発展途上国の国々が知りたいと思っていることであり、現在の私たちにも必要なこと」とのお話がありました。

また、元津田塾大学学長飯野正子氏による講演「津田梅子の生き方」では、津田梅子がめざしたこと、達成したことが語られました。

北里大学長島袋香子氏、渋沢史料館井上潤氏、本学学長髙橋裕子による鼎談では「明治のパイオニアたちが力を注いだ女子高等教育ー激動の時代を生きた３人の思いとは」をテーマに、３者がそれぞれ女子教育の分野でどのように力を尽くしたかが語られました。鼎談の最後に、髙橋学長から「現在の私たちよりももっと困難な状況のなかで、それを克服し新たな道を切り開いた３人の足跡を学ぶことは私たちを励まし、インスピレーションを与え、エネルギーを与えてくれる。新券を見る私たち一人ひとりが、明るい社会を、よりよい未来を形作っていく、そういう社会を作る一翼を担うんだ、という責任感を持って前進していくことが重要」とのメッセージが送られ、会場から拍手が起こりました。

当日は約400名の参加者があり、新札の肖像となる３者が社会に果たした役割の大きさを再認識できる有意義なシンポジウムとなりました。

■「津田梅子の小袖修復プロジェクト」総合報告展とギャラリートークを開催

2023年11月13日(月)～12月15日（金）にかけて、創立120周年記念事業「津田梅子の小袖修復プロジェクト総合報告展～心をつなぐ手仕事～」を、交流館山根記念ギャラリーで開催しました。

１年がかりの修復作業について、ご協力いただいた女子美術大学染織文化資源研究所の作業の様子や、修復完了後の小袖の写真などのほか、実際に使われていた糸や修復のために新たに制作された糸などを展示しました。

また11月14日（火）には、プロジェクトを主導してくださった女子美術大学の大﨑綾子先生をお迎えし、髙橋学長と対談形式によるギャラリートークを開催。津田梅子の小袖や修復プロジェクトのほか、大﨑先生が手掛けておられる東日本大震災で被災した染織史料の修復計画についてなど、大変幅広くお話していただきました。出席された女子美術大学関係者の方々からは専門家ならではの質問やお話があり、さらに小袖の来歴を知った同大名誉理事長・大村智先生からは「国宝に匹敵するのではないか」とありがたくも過分なお言葉をいただきました。あらためて、一枚の古い着物を通して歴史と「文化財の修復」の世界を見つめなおす一日となりました。

この展示をもって、当初予定していたプロジェクトは全て終了いたしました。ご支援・ご協力いただいた皆様には心より感謝申上げます。

なお、修復された小袖の展示は「年間２週間以内」という制限があるため、これからは比較的気候の良い秋頃に限定展示を行うことになります。いつまでも小袖の愛らしい姿を見て頂けるように、大切に守って参ります。

■講演会「津田梅子と新渡戸稲造 ～二人の出会いと協力、別れまで」を開催

創立120周年記念事業の一環として、一般財団法人新渡戸基金理事長藤井茂氏による講演会「津田梅子と新渡戸稲造ー二人の出会いと協力、別れまで」を2024年1月22日（月）に小平キャンパス１号館1111教室で開催いたしました。

新渡戸稲造は、本学の前身である女子英学塾から、校名が変更となった津田英学塾、津田塾専門学校と30年もの間理事を務め、本学の運営に寄与しました。その協力は、親族も含めた一家をあげてのものでしたが、２人が受けた教育、出身、友人関係などは、共通点が多くありました。そのきっかけが、新渡戸稲造と津田梅子の親友であるアナ・C・ハーツホンの父親、ヘンリー・ハーツホンとの出会いにあったことが藤井氏により語られました。

新渡戸稲造と津田梅子の「知」に対する姿勢の違い、1900年女子英学塾が創設された年に、新渡戸の著書『武士道』が日本で出版されたこと、梅子の片腕として本学の創設期を支えたアナ・C・ハーツホンは、新渡戸の恩人であったことなど、さまざまな関わりがわかりました。

新渡戸稲造が妻メアリー・エルキントンと結婚をする際に、日本人を劣等な人種とみる差別的な考え方からとても反対され、それがおそらく新渡戸に『武士道』を書かせる一因になり、新渡戸が生涯を通じて「日本人の倫理観、日本人のすばらしさを見せる生き方をした」という話は、私たちにあらためて、生きる姿勢を学ばせてくれるものとなりました。

ご挨拶

2024 年 3 月 31 日付で定年退職を迎える教員よりご挨拶申し上げます。

英語英文学科 教授　野口 啓子

1995 年に赴任して以来、28 年間、本学の教育・研究に携わってきました。振り返ると、三つのことが印象的に思い出されます。ある学科会議で「今の発言のトピック・センテンスを述べよ」という言葉が飛び交いました。まとまりのない意見に向けられた冗談まじりの批判でしたが、気がつくと私も論文指導などの折に繰り返す言葉になっていました。二つ目は、学長室会議で青柳龍也先生を中心にペーパーレス化が推進されたことです。私にとってまさに「デジタル革命」でした。膨大な資料の配信や訂正が即時に行われる様(さま)に目を見張りました。このプロセスがあってこそ、コロナ禍における授業の完全オンライン化が達成されたと確信しています。三つ目は、教職の再課程認定の対策委員会に加わり、厳格化する「教員免許」の条件を教職員が力を合わせてクリアできたことでした。そして忘れてならないのは、これらの中心にいつも熱心で勉学意欲の高い学生たちがいたことです。津田の学生・大学院生の皆さんに心より応援(エール)を送ります。

総合政策学科 教授　成田 眞澄

2020 年 4 月に総合政策学部に着任しましたが、新型コロナウィルス感染症の流行によりオンライン授業となり、受講生に対面で会えたのは 2022 年 4 月でした。総合政策学部ではわずか 4 年間の教員生活でしたが、どんな状況下でも教育活動を続けることの意義と可能性を深く考える機会となりました。

企業で言語処理の研究開発に従事したのちに大学教員になりましたが、その後の約 20 年間はあっという間に過ぎていきました。こうした日々を振り返りますと、その原点は当時の学芸学部英文学科で「ことば」の面白さを学んだことにあると思います。まさに、「ことば」に魅せられたわけです。

実は、1 年前から新しい外国語の習得をオンライン講座で始めました。定年退職はひとつの区切りですが、その前から次の挑戦を始めることの大切さを痛感しました。これからは、津田塾大学の後輩たちが世界に羽ばたいていけるように背中を押す社会貢献活動をしたいと思っています。

学芸学部 教授　牛島 順子

この 5 年半、教職を目指す学生の入り口指導と出口指導、中間の教育実習事前指導、教員採用試験対策を担当しました。入門編の概論では教職のマイナスイメージを払拭すべく、４０年の教職生活で実感した「魅力」を伝え、教務課の応援をいただき「目からうろこ」という反応を得ました。４年生実践演習では実技特訓をし、「4 月からスムーズにスタートできます」と感謝されました。教採対策では学生生活課の皆様と共に、どこの大学よりも丁寧で質の高いファーストクラスのサポートを心がけ、かなりの合格者を出しました。全国で変革を担う女性のロールモデルとして活躍中です。実力があるのに不安がる学生の応援には冊子を 6 冊作りました。感謝され応援され、自分の予想以上の力が出たように感じます。BEYOND です。母校愛に燃え我が齢も忘れて走り続けた日々、青春のような日々でした。猪突猛進でご迷惑をかけたこともあったかと思いますが、温かく支えて下さり、ただただ感謝あるのみです。

総合政策学科 教授　津曲 俊英

此頃津田ガヤに流行るもの
FDSD　CPS　ZOOM　ハイブリッド
五輪の梅　世に課題(こまりごと)　数多あり
データ情報　社会科学(サイエンス)　大蛇(パイソン)在(R)るを
覚(おぼ)へては　四海に解(と)決く道　得度せむ
元の甍(いらか)の　立普請　時と費(つい)用は
かかれども　津田ガヤあるも　な忘れそ
外つ寮試には　トーイック　秋つ挙試　高大結び　分を積む
かの学舎は　名にし負ふ　郎女集ふ　責(よ)きところ　偶(たまさか)に
天井落つこそ をかしけれ
疫病は過ぎたるやうなり　乙女子は　朗ら友垣作れかし
諸人の　懐に持つべき　五千疋　梅の紙銭　頼もしや
世の色は　常なきものと　レインボー
トランスのジェンダー　罷り越さむか
おほやけは　協力(ごうりき)ありてこそあらめ　連携センター(あずかりところ)ぞ　育めよ
学生(がくしょう)に　社会(うつそみ)の置目(おきめ)　由無しを　語り伝へて　幸あれと
祈り過ごせし　七歳(しちとせ)か
俄教師の　嘯(うそぶ)きて　着つけぬ冠　杓持ちて
授法したるは　面映し
天下一統めずらしや　御代に生きてさまざまの
事を見聞く不思議なる
津田ガヤ童の口すさみ　十分の一をもらすなり

（ありがとうございました！）

総合政策学科 客員教授　村木 厚子

総合政策学部で 7 年間、客員教授を務めさせていただきました。長年の公務員生活を終え、第二のキャリアとして「若い人を教えてみたい」という気持ちと「それは、無理」という気持ちの間で迷っていましたが、新たに創設された総合政策学部の設立目的「現代社会の諸課題を解決する力を備えた、リーダーシップのある人を育てます」という言葉に心を打たれ、勇気をふりしぼってこの仕事に就かせていただきました。

ゲスト講師の選任、自分が教える部分の内容の検討、学生の要望の把握等々、試行錯誤が続きましたが、学生の「楽しい」「毎週社会見学に行っているみたい」という声に励まされ、また、ゲスト講師と自ら連絡を取って、見学やインターンシップにでかけていく学生たちの行動力に励まされ、7 年間仕事を続けることができました。先生方や事務局の皆様にもいろいろなところで助けていただきました。

私にとって大きな学びの期間となったこの至福の 7 年間に心から感謝です。

寄付者ご芳名

（2023年10月1日～2024年1月31日現在　掲載希望者のみ）

サポート＜津田スピリット＞募金　創立 120 周年記念事業募金

阿部 邦代　様
荒居 万里子　様
板垣 絵里　様
稲川 薫　様
江川 雅子　様
大島 美穂　様
大竹 加余子　様
梶本 泰代　様
加藤 知都江　様
小泉 まき子　様
小林 和子　様
近藤 美恵子　様
斉藤 治人　様
佐藤 曬　様
重本 真美　様
島田 精一　様
白石 弘美　様
鈴木 美重　様
髙崎 恭子　様
高橋 左紀子　様
髙橋 裕子　様
坪沼 悦子　様
鶴田 敏　様
永野 康子　様
林 一公　様　（故 堤 瑩子　様）
板東 久美子　様
平岡 大作　様
細川 敦子　様
前田 陽子　様
松川 裕子　様
真野 千佳子　様
三浦 育子　様
山本 真之　様
湯浅 瑛　様
吉田 明子　様
故 井上 如　様
津田塾大学同窓会ワシントン D.C. 支部　様
津田塾大学同窓会岡山支部　様
津田塾大学同窓会千葉支部　様
40 周年同期会　様
匿名　17 名

サポート＜津田スピリット＞新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急募金

松川 裕子　様　　匿名　2 名

サポート＜津田スピリット＞募金

【学修環境整備（小平キャンパス）】
小島 美枝子　様
星 眞維美　様
松川 裕子　様
沢木 美奈　様
50 周年同期会　様

【学修環境整備（千駄ヶ谷キャンパス）】
小舘 亮之　様

【津田塾大学 教育振興資金】
岩井 琢磨　様
軽部 恵子　様
木内 尚子　様
Bieg 舞　様
匿名　3 名

【その他】
髙橋 秀明　様
山根　徹　様
一般社団法人津田塾大学同窓会　様
匿名　3 名

理事会・評議員会開催報告

第202回評議員会　2023年10月27日

【諮問事項】
1．2023年度補正予算（案）に関する件

【報告事項】
1．津田梅子記念会＆ホームカミングデーについて
2．創立120周年記念事業委員会からの報告について
3．アメリカの女子大学の動向について
4．高大連携及び年内入試の進捗状況について
5．学部再編の進捗状況について
6．その他

第324回理事会　2023年10月27日

【審議事項】
1．2023年度補正予算（案）に関する件
2．元非常勤講師契約不更新訴訟に関する件

【協議事項】
1．「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく本学の公的研究費管理の現状について

【報告事項】
1．津田梅子記念会＆ホームカミングデーについて
2．創立120周年記念事業委員会からの報告について
3．アメリカの女子大学の動向について
4．高大連携及び年内入試の進捗状況について
5．学部再編の進捗状況について
6．その他

第325回理事会　2023年12月22日

【審議事項】
1．人事院勧告に伴う本学教職員の給与改定に関する件

【協議事項】
1．寄附行為変更の進捗状況に関する件

【報告事項】
1．2023年度事業計画に係る中間報告について
2．2023年度収支見込みについて
3．学費改定に係る検討の進捗状況について
4．学部再編に係る検討の進捗状況について
5．その他

公開講座のご案内

▪ 総合 2024

現代のさまざまな問題を取り上げ、学生が主体となり教員と協力して運営に当たる「総合」。

2024 年度は「**学ぶ門には福来る ～豊かに生きるヒントを探そう～**」をテーマに、各回でご活躍の方々にご講演いただきます。

講　師：公演予定者については、本学 Webサイトをご参照ください。
日　時：授業期間中の毎週木曜日　13:00～14:30
お申込み：不要。本学正門守衛所にて、住所・氏名等をご記入ください。
参加費：無料。どなたでも参加できます。

▪ 女性学

講　師：【第 1 ターム】吉朝 加奈 氏（東邦大学看護学部准教授）
【第 3・第 4 ターム】大橋 稔 氏（城西大学教授）
日　時：【第 1 ターム】毎週火曜日 16:20～17:50
【第 3・第 4 ターム】毎週月曜日　16:20～17:50
参加費：無料。18 歳以上であれば、どなたでも参加できます。
受付期間：2024 年 3 月 7 日（木）～4 月 8 日（月）
お申込み：本学 Web サイトより申請を行ってください。

●お問い合わせ：教務課　Tel. 042 - 342 - 5130　●場　所：小平キャンパス

Tsuda Today　No.130
発行日●2024 年 3 月 29 日　編集●経営企画課　〒187 - 8577　東京都小平市津田町 2 - 1 - 1　表紙切り絵●CHIKU
発　行●津田塾大学　Tel. 042 - 342 - 5113　https://www.tsuda.ac.jp/　（種村千明・2000 年卒）